

最新HTMLエディター9本

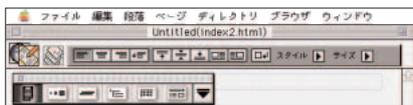
Macintosh



COSAIC WebDesigner V2.0

現在のHTMLエディターで最も多機能なのがCOSAICだ。対応するタグの種類が多さや強力なリンクチェック機能などはまさにプロ仕様といえるだろう。アイコン、背景パターン、サンプルホームページも多数収録されている。Windows版も発売の予定。

動作環境 : LC475以上/ppc
 開発元 : 株式会社ビジョン・コーポレーション
 販売元 : 日本コダック株式会社
 問い合わせ先 : TEL.03-5488-2365
 定価 : 198,000円
 URL <http://www.visionj.co.jp/>



Adobe PageMill 1.0J

シンプルなインターフェイスで操作性の良さを誇るのがPageMillだ。独自のグラフィックエディターの機能が充実しているのは、定番グラフィックソフトPhotoshopを生み出した同社ならではのもの。

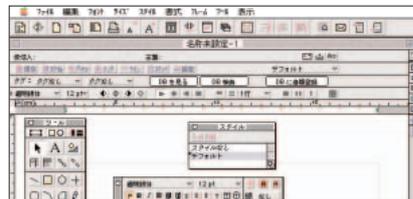
動作環境 : 68020以上/ppc
 開発元 : アドビシステムズ株式会社
 販売元 : システムソフトウェア/ソフトウェア・トゥー/メディアビジョン
 問い合わせ先 : TEL.092-752-5264 / 03-3797-5788 / 03-3222-6814
 定価 : 29,800円



I-Write

HTMLファイル書き出し機能を備えたワープロという性格の製品だ。しかし、個人がホームページで簡単な情報発信をするときには十分役に立ってくれる。

動作環境 : 68k/ppc
 開発元 : ウィンダラン・ソフトウェア株式会社
 問い合わせ先 : TEL.03-3372-8440
 定価 : 19,800円



Windows-OS/2



HOTALL

HTMLエディターとしての機能は標準的だが、リンクをたどりながら編集ができる「リンクブラウザー機能」があり、リンクを多用するホームページを作るときに重宝する。OS/2版とMacintosh版も発売が予定されている。

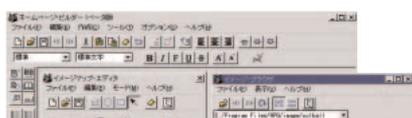
動作環境 : Windows 95/3.1
 開発元 : デービーソフト株式会社
 問い合わせ先 : TEL.011-807-6730
 定価 : 20,000円
 URL <http://www.db-soft.co.jp/>



ホームページビルダー

コストパフォーマンスに優れた高性能のHTMLエディターがIBMの「ホームページビルダー」。Webブラウザーとしての機能やクライアントサイドのイメージマップ作成機能も備え、表組も簡単に作ることができる。

動作環境 : Windows 95、OS/2
 開発元 : 日本アイ・ビー・エム株式会社
 問い合わせ先 : TEL.0120-041992 (フリーダイヤル)
 定価 : 14,800円
 URL <http://www.ibm.co.jp/Products/news/960326/home/>



WZ-EDITOR for Windows Ver 2.0

元来がテキストエディターなのでWYSIWYG度は高くないが、逆にHTMLのソースファイルを表示してエディターの機能を使って編集できることが強みである。NIFTY-ServeのSVCからデモ版をダウンロード可能。

動作環境 : Windows 95/NT/3.1
 開発元 : 株式会社ビレッジセンター
 問い合わせ先 : TEL.03-3221-3525
 定価 : 9,800円



WordToWeb

マイクロソフト社のワープロWordのアドインソフトで、インストールし「新規作成」でWordToWebのテンプレートを選ぶとホームページ作成用のアイコンパーが追加される。Wordの操作感そのままでもホームページが作成できる。

動作環境 : Windows 95/NT/3.1
 開発元 : NEC汎用アプリケーション事業部
 問い合わせ先 : TEL.03-3456-8343
 定価 : 9,800円 (ワード95インターネットパッケージ)



Internet Assistant for Microsoft Windows 95

マイクロソフト社純正のWord用アドインソフト。表組やフォームに対応しているほか、自社のWebブラウザーであるInternet Explorer独自のタグもサポートしている。この版は同社の製品「Microsoft Word for Windows 95, Internet Package」(12,000円)に同梱されている。

動作環境 : Windows 95/NT
 開発元 : マイクロソフト株式会社
 定価 : 12,000円 (ワード95インターネットパッケージ)
 URL <http://www.microsoft.co.jp/office/word95/iaword95.html>



Netscape Navigator Gold 2.0

定番ブラウザーに標準的なHTMLエディター機能が加わったのがNetscape Gold。最新の版がNetscape社のホームページ (http://home.netscape.com/comprod/mirror/client_download.html) からダウンロードできる。

動作環境 : Windows 95/NT
 開発元 : Netscape Communications Corp.
 URL http://home.netscape.com/comprod/mirror/client_download.html/



① 文字の装飾と位置揃え

どのエディターも文字の装飾についてはHTMLの標準的な仕様をほぼ満足しているが、Netscape拡張の一部については対応していないものもある。操作についてはアイコン中心のものやメニューから選ぶものがあるが、これは各自の好みで選べばよいだろう。



タグによる文字サイズの指定



<BLINK>タグによる文字の点滅



タグによる文字色の指定



<P ALIGN=RIGHT>タグによる文字の右寄せ

Macintosh

COSAIC

わかりやすいインターフェイスのアイコンバーとツールパレットだけで文字装飾ができる。通常の見出し指定のほか、タグにも対応しているので、文字ごとにサイズ指定ができる。



PageMill

テキストの書式は[スタイル]メニューと[フォーマット]メニューで行い、文字の大きさは、見出し指定で行う(タグには対応していない)。テキストの右寄せや文字の点滅をサポートしていないなど、HTML拡張機能への対応度合いは低い。文字入力はとても軽快で操作性も良好。

I-Write

ワープロ感覚の操作性で文字入力ができる。画面上では文字の大きさを自由に換えられるが、実際に使えるのはHTMLで定められているサイズである(見出し指定ではなくタグが使われる)。文字のポイント数とサイズの対応は、HTML初期設定で設定するようになっている。



Windows-OS/2

HOTALL

軽快に文字入力ができる。アイコンバーあるいはメニューから[書式][文字装飾]で文字の属性を変える。文字単位でサイズや色を指定することもできる。右寄せには対応していない。



ホームページビルダー

センタリングではNetscape拡張の<center>タグではなく、HTML3.0の機能である<p align=center>が使われる。文字色はメニューの[編集][背景/テキスト色]でテキスト、リンク、既読リンク、選択リンクが換えられるほか、[属性変更]から文字単位での設定もできる。ただし、範囲指定の方法が独特なので最初はややとまどうかもしれない。



WZ-EDITOR

細かい指定では主にメニューによる操作になるが、元来テキストエディターなので文字中心のホームページならばテキストエディターの機能をフルに生かして快適な作業ができる。文字サイズを見出しで指定すれば実際のサイズで表示されるが、の機能で文字を指定しても画面上では確認できない。



WordToWeb

ワープロのWordをベースとしているので、使い慣れている人には違和感なく使える。ほとんどの作業がツールバーで行えるのも特徴だ。もともとワープロに備わっているスペルチェック機能がそのまま使えるので、英語で情報を提供するときにも便利である。文字単位の色指定はサポートしていない。



Internet Assistant

Wordの開発元のMicrosoftの製品だけあって、操作性はWordそのもの。ワープロの各種機能がそのまま使える。これまでに蓄積されたWord文書を加工してホームページで発信したい場合の有力な選択肢である。



Netscape Gold

日本語の文字はインライン入力できない。文字の装飾はアイコンバーで指定できるが、細かい指定はメニューバーの[Properties]から[Text]を選んで行う。テキストの入力ではいくつかの決まり事があるので注意。パラグラフのスタイルが[Normal]のままだと、改行が
(改行)ではなくすべて<p>(パラグラフ)タグになるため、2つの改行が挿入されてしまう。通常の改行をしたいときは[Description Text]を選んでおく。空行を1行挿入するときは、[Insert][New Line Break]あるいは[Ctrlキー+Enterキー]で行う。文字単位でサイズを変えられたり、カラーパレットを使って簡単に文字単位でフォントの色を変えられたりするのはNetscape拡張のタグとタグに対応したものの。



② 画像の貼り込み

最近のHTMLエディターではインライン画像の貼り込みは、ドラッグ&ドロップが主流になりつつある。アドビのPageMillはバックグラウンドの画像もパレットへのドラッグ&ドロップで貼り込めてしまう。一方、ワープロあるいはテキストエディターにHTML作成機能が付加されたソフトウェアでは、メニューから画像ファイルを指定して取り込めるものの、インライン画像のリサイズやバックグラウンド画像を画面上で確認できないものが

 インライン画像のドラッグ&ドロップ

 GIFの透明化

ほとんどである。

今回取り上げただけには独自のグラフィックエディターやファイルフォーマットの変換機能を備えているものもあり、グラフィックソ

 インターレースGIF作成

 ファイル変換機能

 画面上でのリサイズ確認

 文字の回り込み

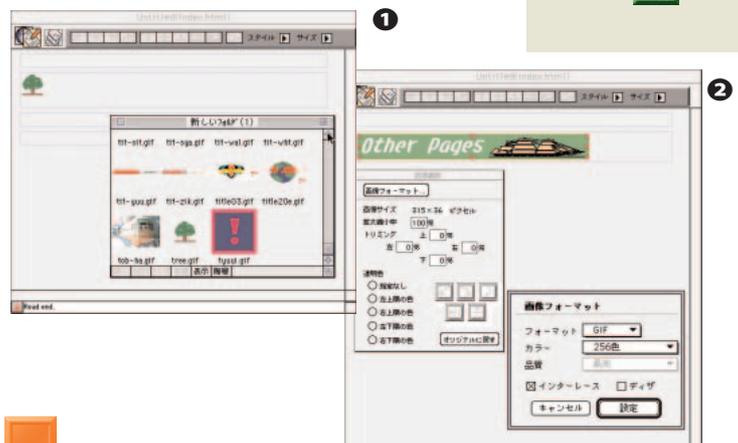
フトを別途用意しなくても、画像を駆使したホームページを作成できるようになってきた。なお、クライアントサイドのイメージマップ作成機能については今回は検証しなかった。

Macintosh

COSAIC

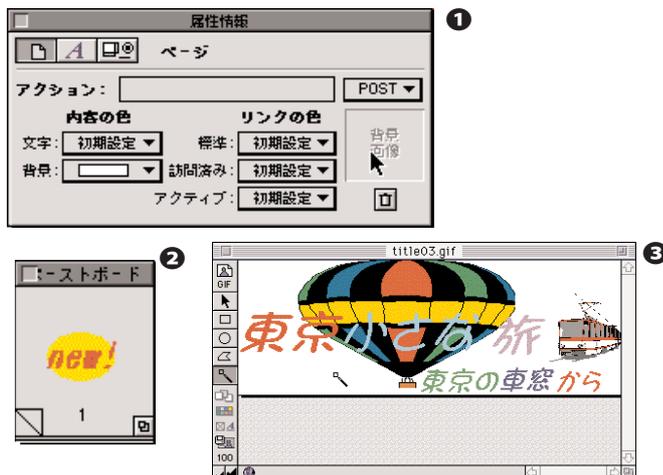
COSAICでインライン画像を貼り込む方法は、同様の機能を持った他のソフトとはやや異なる。任意の画像ファイルを直接ドラッグ&ドロップするのではなく、まず[ウィンドウ]メニューから[マスターフォルダ]を選び、そこで目的の画像ファイルのあるフォルダを指定してから編集中のページにドラッグ&ドロップする(①)や手間がかかるが、この操作はページと画像とのリンクをソフトウェアで管理する都合上必要とされているのだと思われる。PICT、TIFF、JPEG、GIFそしてPhoto CDと数多くの画像フォーマットに対応している。

画像をダブルクリックすると画像編集のダイアログがポップアップし、ここでGIFの透明化やインターレース化ができる(②)。



PageMill

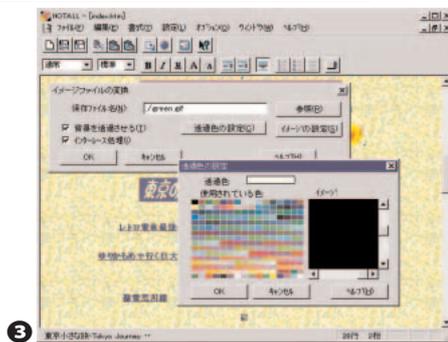
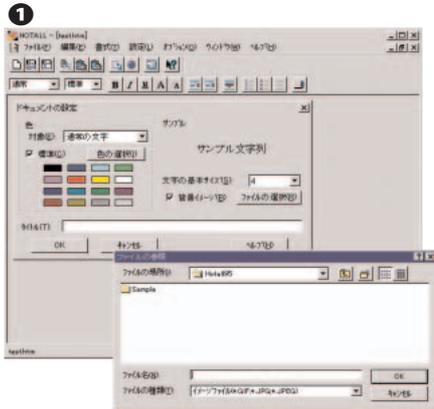
PageMillのグラフィック処理は非常に充実している。背景やリンクの色は「属性情報パレット」で指定する(①)。画像はすべてドラッグ&ドロップで貼り込めるほか、画面上で確認しながらリサイズも可能だ。PICT形式の画像を貼り込むと自動的にGIF形式に変換してくれる。よく使うアイコンなどの画像はペストボード(②)に登録しておくと、そこからいつでもページ上にペーストできる。また、画像をダブルクリックするとグラフィックエディター(③)が起動し、各種加工とGIFの透明化とインターレース化ができる。



I-Write

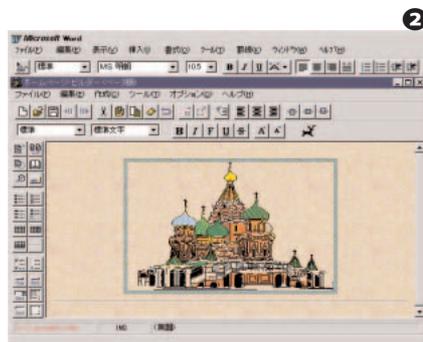
I-Writeでの画像の貼り込みは独特で、最初に[フレーム]メニューから[画像フレーム]を選んで入力フィールドを作成しておく。ここに[ファイル]メニューから[読み込み]を選んで画像ファイルを指定する。画像の拡大と縮小はこの画像フレームで調整する。HTMLファイルとして保存するときに、貼り込んであったEPSファイルとPICTファイルは自動的にJPEGファイルに変換してくれる。画像に対する文字の回り込み設定はできない。

Windows-OS/2



HOTALL

背景の画像は[設定] [ドキュメントの設定]で表示されるダイアログボックスで指定する(①)。インライン画像の貼り込みはドラッグ&ドロップに対応し、[イメージの設定]ダイアログボックスでサイズの変更や縁取り、文字との間の空などの細かい設定もできる(②)。さらに、Windowsの標準画像形式であるBMPファイルを取り込むときに透過GIFやインターレースGIFへ変換する機能も備えている(③)。



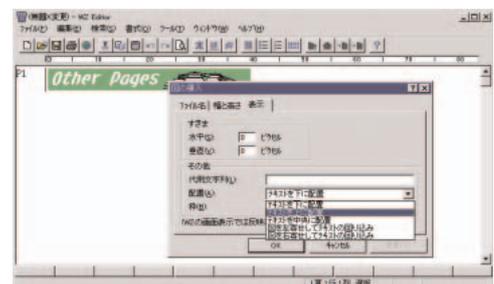
ホームページビルダー

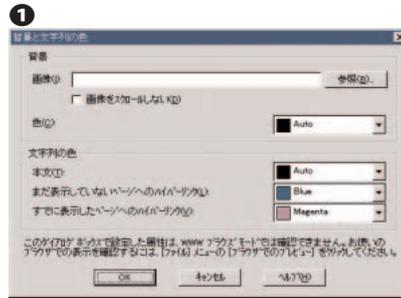
バックグラウンドの画像は[編集] [背景/テキスト色(①)]で指定する。インライン画像はドラッグ&ドロップで貼り込み、拡大縮小も画面上でできる(②)。BMP形式やTIFF形式の画像をドラッグ&ドロップするとその画像へのリンクは作成されるが、フォーマットの変換や編集領域での表示はされない。使用している画像ファイルの一覧を表示する「イメージブラウザ」とクライアントサイドのイメージマップを作成する「イメージマップエディタ」が付属している。ただし、GIFファイルの透明化とインターレース化には対応していない。



WZ-EDITOR

背景の色やバックグラウンドへの画像の貼り込みはメニューから[書式] [文書のプロパティ]で、インライン画像ならば[書式] [挿入] [図]で開くダイアログボックスで指定する。画像のサイズやテキストの配置や回り込みなどを設定できるが、このエディター上で確認することはできず、別途ブラウザが必要だ。GIFファイルの透明化とインターレース化には対応していない。



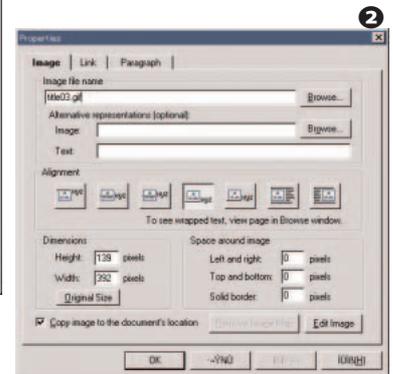
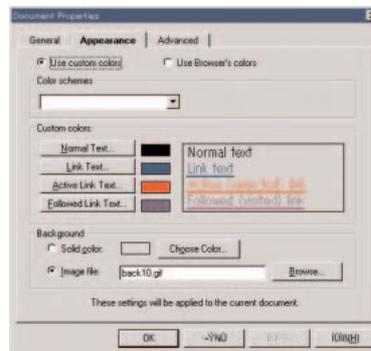


Internet Assistant

バックグラウンドと文字色は [書式] メニューの [背景とリンク] で設定する (①)。設定した結果を見るためには他のWebブラウザを使う必要がある。インライン画像は [挿入] [画像] メニューまたは [図挿入] ボタンを選ぶとファイル選択ダイアログボックスが開くので、プレビュー画像で確認して画像を選ぶ (②)。ここで画像のサイズを指定できるが、Internet Assistantの画面では確認できない。BMP形式のファイルも読み込むとそのファイルへのリンクが作成されるが、ファイル変換機能がないので、そのままではブラウザに表示されない。また、既存のWord文書を保存し直すとデータ中に貼り込んであったBMP形式の画像はすべて消えてしまうので注意が必要だ。

WordToWeb

[文書情報] アイコンからバックグラウンドの画像を指定できるが、画面上で確認することはできない (①)。インライン画像を貼り込むときは [HTML] [画像の挿入] メニューで、あるいは [画像] アイコンをクリックして表示されるダイアログボックスで指定する (②)。画像のリサイズ、フォーマット変換、GIFの透明化とインターレース化はサポートしていないが、クライアントサイドのイメージマップを作成するマップエディターの機能を持っている。



Netscape Gold

バックグラウンド画像の貼り込みは、メニューバーの [Properties] から [Document] [Appearance] と選んで行う (①)。インライン画像はドラッグ&ドロップで簡単に貼り込める。画像を選んで [Properties] から [Image] を選ぶが、その画像をダブルクリックすると、画像サイズ、文字との間隔、リンク、画像と文字の配置、文字の回り込みなどの設定画面が現れる (②)。インターレースGIFや透過GIFへの変換機能はない。

③ リンクの設定とチェック

-  リンクのドラッグ&ドロップ
-  リンクの一覧表示
-  リンクエラー自動チェック
(外部へのリンクは除く)
-  他のページの特定位置へのリンク

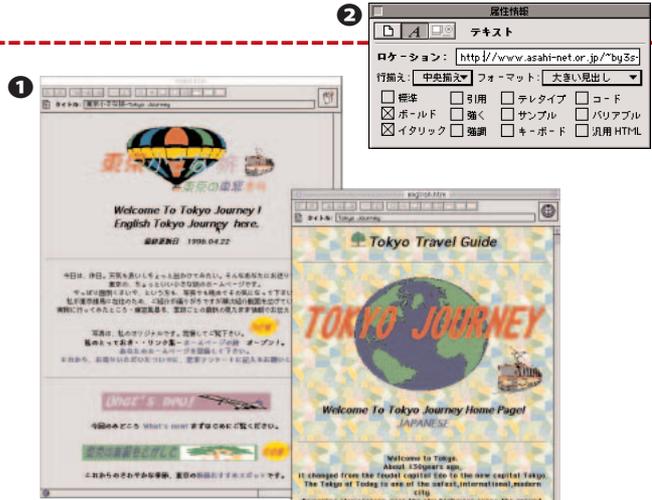
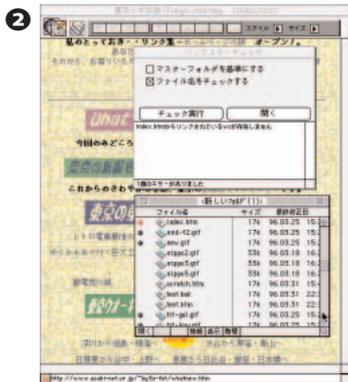
ホームページの作成では、リンク設定の便利勝手が作業の効率に大きく影響する。初期の頃のHTMLエディターでは、リンク先のURLを自分で入力する必要があり、1文字でもタイプミスがあるとアドレスエラーとなり、再度設定する必要があった。最新のHTMLエ

ディターではリンクもドラッグ&ドロップで設定できるようになり、入力ミスが格段に少なくなった。また、リンクの有無を調べるリンクチェック機能も徐々に搭載されるようになってきた。

Macintosh

COSAIC

リンクの設定は、リンク元となるテキストや画像にリンク先ページのページアイコンやファイルをドラッグ&ドロップするだけでよい(①)。COSAICにはWebブラウザ機能もあるので、ネットサーフィンをしながら外部のホームページのリンクをどんどん追加していくようなこともできる。さらに、COSAICはプロ仕様のリンクチェック機能を持っている。ホームページに含まれるリンク元とリンク先ファイル名の一覧を表示し、各ファイルのアイコンをクリックするとそれを開くことができる。リンク先の有無をチェックする機能を使うとマスターページからすべてのリンクをたどり、存在しないファイルがあればエラー結果を表示してくれる(②)。リンクの自動更新を設定しておく、ファイルを移動したときやファイル名を変更したときに、関係するファイルへのリンクを自動的に設定し直してくれる。

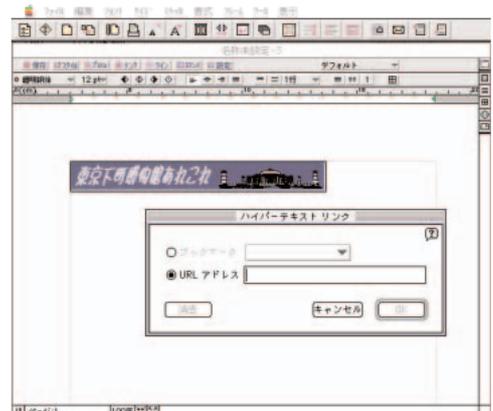


PageMill

PageMillではリンクの設定はすべてアイコンで行う。リンクを貼りたい文字列を指定したら、そこに別のページのページアイコンやアンカーアイコンをドラッグ&ドロップするだけでよい(①)。外部のサーバーにあるホームページはテキストの属性情報パレットにある[ロケーション]で指定する(②)。

I-Write

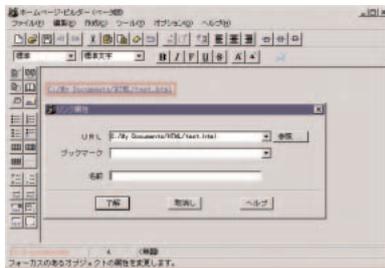
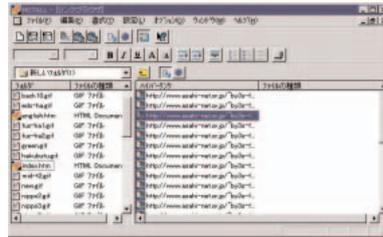
リンクの設定はメニューで[ツール][HTML][ハイパーテキストリンク]と選ぶが、[リンク]ボタンをクリックすることで表示されるダイアログボックスでURLアドレスやブックマークを指定する。



Windows-OS/2

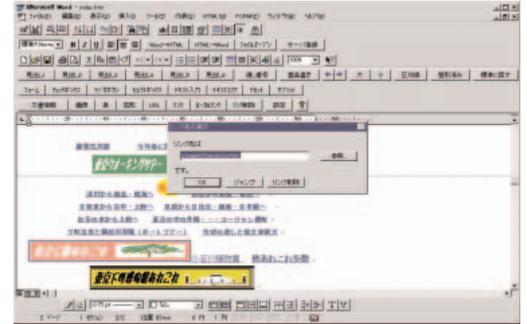
HOTALL

[オプション] メニューから [リンクブラウザ] を選択すると、ローカルディスクやネットワークドライブ上にあるファイルの一覧が表示される。この一覧からリンク先を選び、リンク元のテキストや画像にドラッグ&ドロップするとリンクが設定できる。[ハイパーリンク] ボタンやメニューからもリンクを設定できる。[リンクブラウザ] は、編集集中のHTMLファイルに含まれるリンク先ファイルやラベルの一覧を表示し、リンクの有無をチェックしてくれる。



WordToWeb

リンクの設定はURL (他サーバーへファイルへのリンク)、リンク (同一サーバー内のファイルへのリンク)、ローカルリンク (ブックマークへのリンク) などは [URL] [リンク] [ローカルリンク] などのアイコンをクリックして開くダイアログボックスで指定する。リンクのチェックは [ジャンプ] ボタンを押して実際に確かめる方式。文書内の特定の位置にはリンクがつけられない。



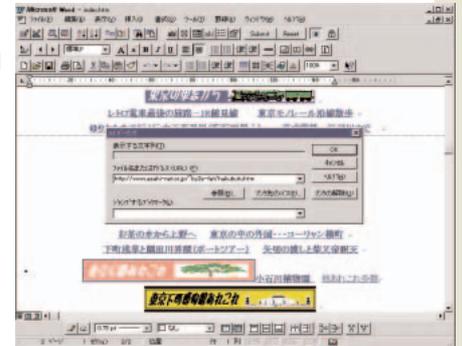
ホームページビルダー

リンク先のファイルを編集集中のホームページにドラッグ&ドロップするだけで、そこにリンクができる。もちろんメニューから指定することもできる。リンクの一覧表示やチェック機能はない。



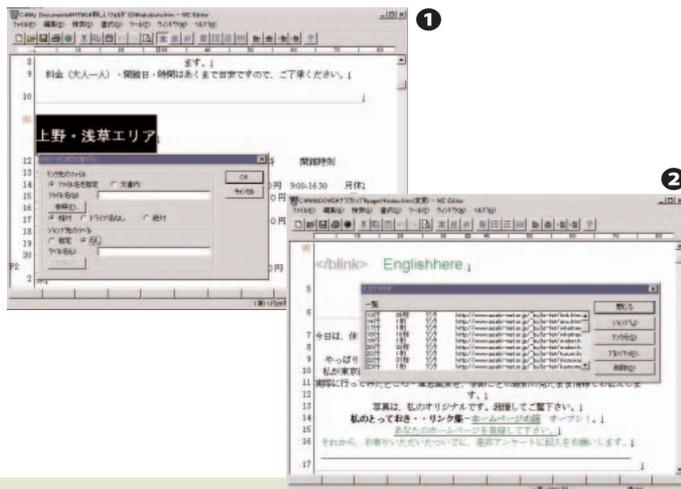
Internet Assistant

[挿入] メニューの [ハイパーリンク] をクリックし、リンク先のファイル名を入力する。選択したファイル内の特定の場所へジャンプするには、ブックマークの名前を [ジャンプするブックマーク] のボックスに入力する。リンクを確認するための機能は特にない。



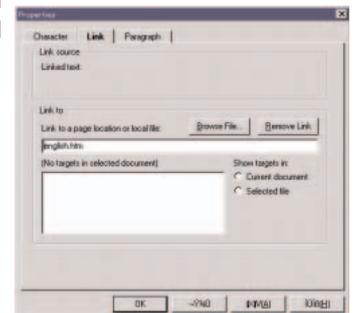
WZ-EDITOR

まず、リンク元となる文字列を選択し、次に [書式] [リンク] を選んで表示されるダイアログボックスでリンク先を指定する (1)。リンクブラウザ (2) ではリンク先の一覧が表示され、それぞれのURLをクリックするとそこにジャンプするので、リンクの有無が実際に確かめられる。



Netscape Gold

リンクはリンク先のファイルを編集集中のホームページにドラッグ&ドロップするだけで作ることができる。このときページ上にはHTMLファイル名が表示されるだけなので、適当な名前書き換える。任意の文字や画像を指定したあとで、メニューの [Properties] [Text] を選ぶか、[Make Link] アイコンまたは [Object Properties] アイコンをクリックすれば、リンク先のURLを入力できる。リンク先のファイル一覧表示やリンクの有無を自動的にチェックしてくれる機能はない。



4 表の作成

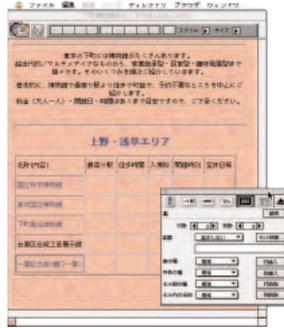
表形式のデータをきれいに見せるためには表を活用したい。少し前までは<TABLE>タグに対応していないブラウザの利用者のことを考えると、表を多用するのは考えものだったが、表作成機能を搭載したHTMLエディターがむしろ主流になりつつあるようだ(今回の試用ソフトウェアの9本中6本が対応済み)。

	表の幅		セル内の余白
	外枠の幅		セル内の位置揃え
	セル間の幅		セル幅
			セルの連結

Macintosh

COSAIC

高機能な表作成機能を備えたのがこのCOSAICだ。手順は[ツールパレット]から[表]アイコンを選ぶと表示されるダイアログで行数と列数を指定し、[新規]ボタンをクリックする。行数や列数はボタンのクリックだけで簡単に変更でき、表のセルの中に別の表を入れ子にすることも簡単にできる。表内の文字入力でもレスポンスが遅く感じられるのは、高機能の代償といったところだろう。



PageMill

表はサポートしていない。またHTMLソースを直接編集できないので、表形式のデータは項目間にスペースを入れて調節しなければならない。

I-Write

[フレーム]メニューから[表挿入]を選ぶと表示されるダイアログで表のサイズと行数・列数を入力すれば簡単に表ができる。行や列の挿入・削除も、[表]メニューや[表]パレットを使って、ワープロ感覚で軽快に行える。表内の位置揃えは中央揃えのみに対応。



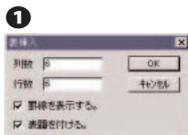
Windows-OS/2

HOTALL

現在のバージョンでは表組みには対応していない。また、HTMLソースを直接編集する機能もないので、表形式のデータは項目間にスペースを入れて位置揃えすることになる。

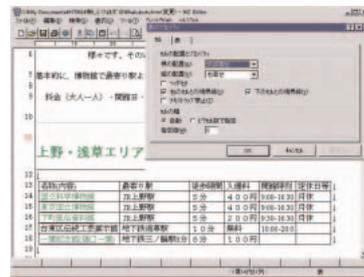
ホームページビルダー

ホームページビルダーの特長の1つは表の作成が簡単にできること。列や行を増やすのは[行挿入]・[列挿入]のアイコンをクリックするだけでOKだ。[属性変更]ボタンで表の属性とセルの属性が設定できるほか、セルの連結もできる。



WZ-EDITOR

[書式] [挿入] [表]を選び、列と行の数を指定するだけでテーブルができる。あとはセルの中にデータを書き込んでいくだけでよい。[書式] [図・表・水平線・リンクのプロパティ]で、表とセルの属性が指定できる。



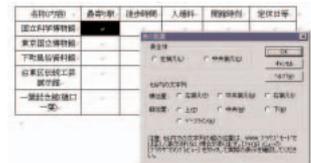
WordToWeb

ワープロのWordそのままの表作成機能が利用できる。[表]ボタンをクリックし、行と列の数を指定するだけで表ができあがる(1, 2)。[作表メニュー]からは、行の挿入やセルの分割・結合も思いのまま、マシンの性能にもよるがかなり軽快な操作が期待できる。



Internet Assistant

WordToWebと同様、表作成は軽快に行える。すべて[罫線]メニューの中で作業する。セル内の文字の位置も細かく設定できる。



Netscape Gold

Netscape Goldでは表の作成はできない。表形式のデータを扱うときは、項目間に全角スペース([Insert] [Nonbreaking Space])あるいはShiftキー+Spaceキー)を入れて体裁を整えることになる。どうしても表を使いたい場合は[Insert] [HTML Tag]で表示されるダイアログボックスにテーブルタグを書き込むか、[View] [Edit Document Source]で外部エディターを起動し、直接HTMLソースにタグを書き込むことになる。作成した表組みの確認はブラウザに切り替えて行わなければならない。

⑤ フォームの作成

個人のホームページでも、入力フォームを設けて自分のホームページへの感想を求めたりアンケートを行ったりするところが増えてきた。今回取り上げたソフトウェア9本のうちフォームの作成機能のあるものは5つで、比較的低価格のものにも装備されるようになってきた。



ドラッグ & ドロップで作成



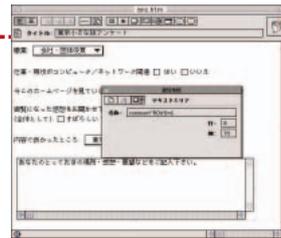
画面上でのサイズ確認



Macintosh

COSAIC

ツールパレットにある各種フォームのアイコンをドラッグ & ドロップするだけで作成できる。画面上に作られたフォームをダブルクリックすると初期値やサイズを設定するダイアログボックスが表示される。画面上で直接リサイズする機能はない。



PageMill

フォームはすべてドラッグ & ドロップで作成する。フォームの位置やサイズはマウスの操作だけで自由に変更できる。テキストフィールド、テキストエリア、ポップアップなどは、みな実際にブラウザで見たときのレイアウトどおりに表示される。



Windows-OS/2

ホームページビルダー

ホームページビルダーでは、アイコンのクリックだけで簡単にフォームが作成できる。人によってはドラッグ & ドロップより使いやすく感じるだろう。テキスト入力フィールドは、画面上で自由に大きさを変えることができる。フォームの項目ごとの設定はメニューから「編集」「属性変更」を選ぶか、「属性変更」アイコンをクリックして行う。テキストフィールド、テキストエリア、ポップアップともレイアウトどおりに表示される。

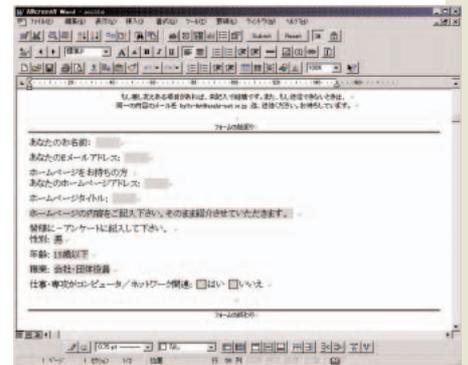


I-Write & HOTALL

フォームに対応していない。ソースを開いてタグを直接打ち込むこともできないので、他のワープロやエディターで加工する。

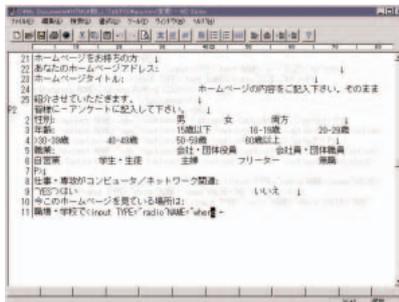
Internet Assistant

[挿入]メニューの「フォーム」をクリックすると表示されるダイアログボックスで1つ1つフォームを作成する。テキストボックスはすべて同じ大きさで表示されるので最終的なレイアウトどおりの表示とはならないが、既定値として入力されたテキストは表示される。



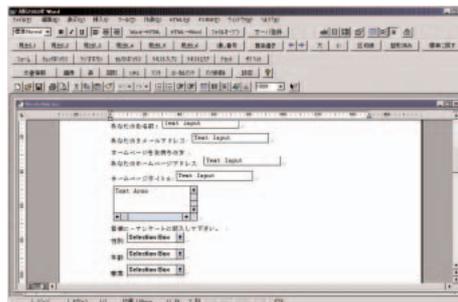
WZ-EDITOR

フォームタグの作成メニューがないので、手間はかかるが自分でフォームタグを入力することになる。その場合は「書式」メニューから「テキストモード」を選んで作業すると効率的だろう。当然、フォームの確認には他のブラウザが必要となる。



WordToWeb

フォームタグはボタンをクリックするだけで画面上に配置される手軽さだ。ただし、フォームの領域はフォームの種類を表すアイコンで示されるだけで、テキスト領域の文字も表示されないので実際にブラウザで見たときのレイアウトとやや異なる。



Netscape Gold

Netscape Goldはフォームを作成するためのメニューがない。表の作成と同様、HTMLソースに自分でフォームタグを書き込むしかない。

総合評価

前号と今月号の2回にわたり最新HTMLエディターの機能と操作性を検証してみた。つい最近まではHTMLタグの簡単入力ツールでしかなかったHTMLエディターだが、短期間のうちにかなり充実したものになってきたよう

だ。どのソフトウェアを使っても、自分でHTMLを覚えてタグを打ち込んでいくよりはその効率は大幅にアップするのは確かである。ただし、業務としてホームページを制作する人と個人の趣味としてホームページを作る人

とでは、道具の選び方も当然違ってくる。次の表は今回の試用結果をまとめてみたものである。ソフトウェア選択の参考にしていただきたい。

表：HTMLエディター操作性比較

	文字の装飾	画像の貼り込み	リンク設定	表の作成	フォームの作成	総合評価 (1~5の5段階で評価)
Macintosh						
COSAIC ビジョン・コーポレーション (価格198,000円)						5
PageMill アドビシステムズ株 (価格29,800円)				-		4
I-Write ウイニングランソフトウェア株 (価格19,800円)					-	3
Windows-OS/2						
ホームページビルダー 日本アイ・ビー・エム株 (価格14,800円)						4
WordToWeb 日本電気株 (価格9,800円)						3.5
Internet Assistant マイクロソフト株 (版)						3.5
HOTALL デービーソフト株 (価格20,000円)				-	-	3
WZ-EDITOR 株ビレッジセンター (価格9,800円)						3
Netscape Gold Netscape Communications (版)						3

Macintosh用のHTMLエディターを機能だけで選べば、文句なくCOSAICが最も優れた製品ということになる。ただし、操作がやや「重い」のが難点か。価格の面からも業務用とみなすことができ、マシンパワーに余裕のあるプロダクション向きだろう。一方、PageMillはコストパフォーマンスと操作性に優れる。個人のMacユーザー、特にデザイナー系ユーザーにおすすめだ。I-Writeは、趣味でホームページ作りを楽しんでいて、ページの更新もあまり多くないというユーザーにはワープロとしても使えるのでありがたい。

Windows用のソフトでは、HOTALLが表とテーブルが作成できないことを除けば、水準以上の製品だ。今後の機能強化に期待したい。ホームページビルダーは全体的にそつなくまとめられた製品。この価格でこれだ

けの機能が、操作性もよいのはありがたい。WZ-EDITORはある程度HTMLの知識もあり、ソースを直接編集する機会の多い人向けの製品である。WordToWebとInternet Assistantはグラフィック回りの物足りなさはあるものの、十分業務にも使えるだけの信頼性はある。Netscape Goldは定番ブラウザにエディター機能がついたものだが、まだ開発途上の製品という印象だ。

HTML専用エディターは、その製品コンセプトの違いが搭載する機能や操作性に如実に表れてくる。多機能化を追求する製品がある一方で、特定の機能に秀でた製品もある。その中で意外に健闘を見せているのが、ワープロやエディターから発展してきたHTMLエディター群だ。専用ソフトと比べて機能的に見

劣りする部分が少なくなっている。既存の自社製品ユーザーを取り込めることから、今後同様の製品が数多く登場してくると予想される。というよりも、むしろワープロの標準機能としてHTML編集機能が搭載されるようになるかもしれない。

インターネット上では個人ホームページによる情報発信ブームが続いているが、HTMLエディターの普及によってその裾野はさらに広がっていきだろう。

6月号付録のCD-ROMに収録した「ホームページビルダー」では、ソフトウェア上の試用期限の設定プログラムにバグがあり、正常に動作しませんでした。ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。今月号に収録したものは正常に動作いたしますので、こちらをご使用ください(試用期限は6月末日)。

<編集部>



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp